

ふもと 織姫山の麓から

法玄寺報

第53号

令和6年秋
(2024年)

百万遍修行を再開



4年ぶりに百万遍修行を行いました

今年は4年ぶりに百万遍修行を行いました。コロナのため中止していたのですが、コロナも収まったので再開することにしました。百万遍修行は大きな数珠（百万遍数珠）を本堂に置き、数珠を取り囲むように参加者が座り、皆で回して極楽浄土に往くことを願う尊い修行です。

10月5日の土曜日に実施しましたが、当日は小雨が降ったり止んだりの天気でした。本来ですと最初に一切精霊祭壇の前で千灯供養を行うのですが、暗いうえ地面が濡れており、滑って転ぶと危険なので千灯供養は中止しました。

4年ぶりの開催に加え、今回初めて百万遍修行に参加する方も多数おりました。百万遍修行では、参加者が同じように数珠を回すことが大切です。幸い、皆さま息を合わせて上手に大きな数珠を回すことができました。

百万遍修行では高齢者も多く、はたして正座できるのか心配していました。ところが一部の人を除き、全員が正座をして参加しました。参加者の中にはドイツ人やフランス人もいて、国際色豊かな行事になりました。住職の読経に合わせ、最初に当山に眠る無縁となった方々、次に戦災や災害などで亡くなった方々、最後に先祖の供養のために大きな数珠を回しました。

ケーナのコンサート



百万遍修行の後、レンさんによるケーナのコンサートを行いました。ケーナは南米の縦笛で、全国でも演奏者の少ない楽器です。レンさんは足利出身のケーナ演奏者で、ケーナは自作です。レンさんのほか、ビオラ奏者の糸永依里さん、電子ピアノ演奏者の大島春生さんが加わりました。

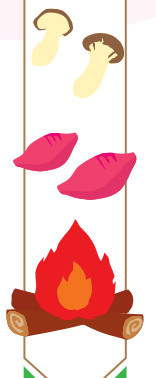
南米の楽曲でありケーナの定番の「コンドルは飛んでいく」をはじめ、季節にふさわしい山口百恵さんが歌った秋桜（コスモス）、レンさんが作曲したオリジナル曲などを演奏しました。ケーナ、ビオラ、電子ピアノのハーモニーが、本堂に響き渡り観客は聞き入りました。明るい曲では、観客はテンポに合わせ手拍子を取り、本堂はコンサートの熱気に包まれました。

コンサート終了後には、能登の震災と水害のためのチャリティーを行い、多くの方が義捐金に協力してくれました。



レンさんのケーナコンサートを行いました

灯籠流し



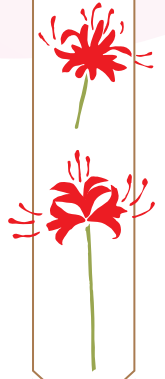
送り盆の翌日の8月17日、恒例の足利仏教和合会による灯籠流しが渡良瀬川の河原で行われました。長い間行われているのですが、市民の中には知らない方も多いようです。昭和22年、カスリーン台風が足利を襲った際、足利市で多くの市民が命を落としました。犠牲となった人たちの慰霊のために、翌年の昭和23年から始まったのがこの灯籠流しです。

地球温暖化のため夏は年ごとに暑くなっていくように、今年の夏も統計上最も暑い夏だったようです。ただ毎年この時期の夕方になると、河原に吹く風には秋が感じられます。川面に浮かぶ灯籠を見ていると、先祖が帰って行くように思われます。



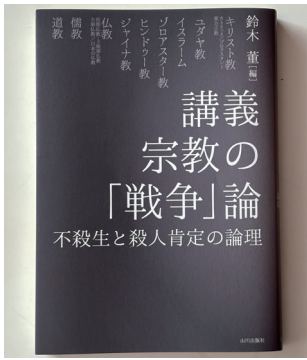
足利仏教和合会による灯籠流し

宗教と戦争



最近、『講義 宗教と「戦争」論』という本を読みました。以前から人を救うはずの宗教がテロや紛争を起こすのか疑問に思っていたので、まさにこの問いに答える本です。

宗教と戦争というと、イスラム原理主義者によるテロや現在まさに中東で起きているユダヤ教のイスラエルとイスラム教のパレスチナ人との紛争を思います。しかし不殺生を唱える仏教でも平安時代から僧兵がいました。また現在でも仏教国のミャンマーではイスラム教徒のロヒンギャを弾圧しています。



宗教と「戦争」論

どの宗教でも人を殺すことは避けるように教えています。その一方で、いつの時代にも国家が戦争を起こします。このような場合、教団としても国家に属する以上、国の求めに応じざるを得ません。ただユダヤ教、キリスト教、イスラム教のような一神教では、中世の十字軍や現在のイスラム教の聖戦（ジハード）のような異教徒のための「神が求める戦争」が教えとして認められているのも確かです。

現在世界各地で宗教が関わっている紛争が数多くあります。このような紛争を理解するうえで、非常に参考になる本です。

能登震災と水害に寄付



能登地方は元旦に大地震が起き、秋には追い打ちをかけるように豪雨が襲い大きな被害が出ました。

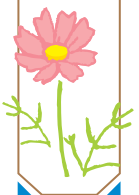
当山では、御朱印代もイベントの際に行うチャリティーも義捐金として被災地に送っています。春に行った野点の後のハーブのコンサートや、また今回のケーナのコンサートでもチャリティーを行いました。御朱印代もチャリティーの際に集まった義捐金も、能登の被災地で救援活動を行っている金沢の法船寺に届けました。

御 朱 印 代	20,803円
ハーブのコンサート	31,725円
ケーナのコンサート	22,324円
合 計	74,852円



義捐金を法船寺の先代住職の光成上人に渡しました。

相田みつをさん生誕百年

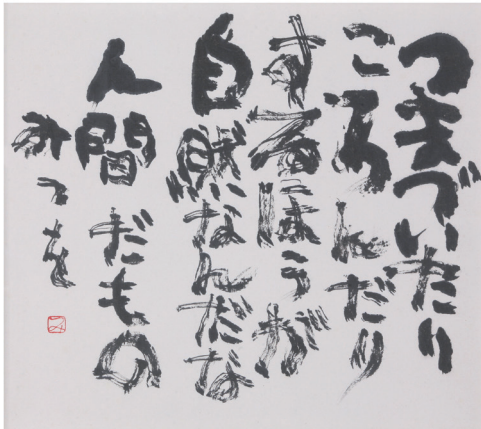


今年は、足利の生んだ詩人にして書家の相田みつをさんの生誕百年です。

生誕百年を記念して、足利では去る7月13日から9月1日までの約2か月の間、足利市立美術館や商工会議所（友愛会館）など9カ所で相田みつをさんの作品が展示されました。特に市立美術館での展覧会は規模が大きく、長男である相田一人さんの解説も添えられている作品もあり、多くの方々が鑑賞に訪れていました。

当山には相田みつをさんが眠っており、多くの相田みつをさんのファンが訪れます。また当山には相田みつをさんの代表作である「人間だもの」などの書をはじめ、ろうけつ染の作品があります。

残念なことに、生誕百年の記念の年に東京国際フォーラムにあった相田みつを美術館が閉館しました。ぜひ足利に相田さんの作品を展示する美術館を作ってほしいものです。



当山にある相田みつをさんの作品

除日の鐘と除夜の鐘



大晦日というと除夜の鐘、年越しそば、紅白歌合戦を思い出す人が多いと思います。

当山でも毎年、除夜の鐘を大晦日に撞いてきました。ただ深夜のため、子ども達が深夜まで起きて鐘を撞きに来るのは大変でした。そこで数年前から、子ども達のために大晦日の正午前から「除日の鐘」を撞き、深夜の零時前から「除夜の鐘」を撞くことにしました。

ただ除日の鐘は最近はじめたので、知らない人が多いようです。檀家の皆様ぜひお子様、お孫様を連れて除日の鐘を撞きにきてください。

- 除日の鐘 11時50分から54回
 - 除夜の鐘 23時50分から54回
- 合計で108回撞きます。



除夜の鐘



除日の鐘